

社会イノベーション学科

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
アントレプレナーシップ入門 (Introduction to Entrepreneurship)						
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	1, 2, 3, 4	前期	月 4	河 野 憲 嗣・渡 邊 博 子・松 隈 久 昭・仲 本 大 輔 E-mail kouno-kenji@oita-u.ac.jp watanabe-hr@oita-u.ac.jp himatsu@oita-u.ac.jp daichan@oita-u.ac.jp 内線 7679(河野)・7702(渡邊) 7680(松隈)・7714(仲本)	
授業の概要	起業家がイノベーションを実現するための思考及び行動様式について学びます。グループワークを中心としてアントレプレナーシップの基礎概念を学ぶと同時にいくつかのケーススタディを行います。それらをふまえて起業をイメージしたプランの作成に取り組んでもらいます。					
具体的な到達目標						
目標1	アントレプレナーシップの基本的な考え方を理解して、主体的かつ具体的に説明できる。					
目標2	社会の変化とイノベーションが深く関わっていることを理解して、説明できる。					
目標3	ビジネスプランを策定して発表できる。					
目標4						
目標5						
授業の内容						
1	オリエンテーション アントレプレナーシップの意義					
2	グループワーク 1 コア・コンピタンスの発見 (価値分析、リーダーシップなど)					
3	グループワーク 1 コア・コンピタンスの発見 (価値分析、リーダーシップなど)					
4	グループワーク 1 コア・コンピタンスの発見 (価値分析、リーダーシップなど)					
5	グループワーク 1 コア・コンピタンスの発見 (価値分析、リーダーシップなど)					
6	グループワーク 2 ビジネスプランの策定 (ビジネスプランシート、事業計画など)					
7	グループワーク 2 ビジネスプランの策定 (ビジネスプランシート、事業計画など)					
8	グループワーク 2 ビジネスプランの策定 (ビジネスプランシート、事業計画など)					
9	グループワーク 2 ビジネスプランの策定 (ビジネスプランシート、事業計画など)					
10	グループワーク 3 フレームワークの理解 (PEST、AIDMA、3C、4P、5Fなど)					
11	グループワーク 3 フレームワークの理解 (PEST、AIDMA、3C、4P、5Fなど)					
12	グループワーク 3 フレームワークの理解 (PEST、AIDMA、3C、4P、5Fなど)					
13	グループワーク 3 フレームワークの理解 (PEST、AIDMA、3C、4P、5Fなど)					
14	プラン発表					
15	講評と総括					
アクティブラーニング	・学習内容を理解していることを確認するための成果物を作成してもらいます。 ・演習や個人／グループでのワークを取り入れて、知識の体得と他の学生から学ぶ機会を設けます。				その他の授業の工夫	毎回の授業でコメントシートの記入、提出を求めます。コメントシートを通じて授業内で対応できなかった質問や感想に答えます。
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	「アントレプレナーシップ」「起業」「イノベーション」といった言葉を念頭にのいて日頃から新聞や雑誌、インターネットなどで政治、経済、経営、社会、技術、文化に関する記事をよく読んでおくこと。(事前学習30時間)				
	事後学習	日常生活の中でアントレプレナーシップを実践している事例を見つけて理解すること。 アントレプレナーシップを発揮できる場面やテーマをみつけて実践してみること。(事後学習15時間)				
教科書	教科書は指定しません。スライドや配布するプリントで進めます。					
参考書	関西ベンチャー学会編(2005)『ベンチャー・ハンドブック』ミネルヴァ書房 本田宗一郎(2001)『夢を力に』日経ビジネス人文庫 その他、必要に応じて授業中に指定します。					
評価方法・成績割合及び評価の	評価方法				割合(%)	
	平常点				40	
	レポート、発表				40	
	学期末試験				20	
注意事項	グループで作業したり、授業中に意見を求めることがあります。 時間外学習を活用して授業を有意義な時間になしてください。					
備考	2017年度以降の入学生のみ受講可能です。					
リンク	URL					
担当教員の実務経験の有無	○					
教員の 実 務 経 験	河野憲嗣(企業経営者、全国銀行協会、人事担当)					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容	ビジネスの実体と金融の側面からアントレプレナーシップの意義について解説する。					

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
大分のものづくりと地域づくり (Manufacturing and Community in Oita)					地域創生教育科目
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	1, 2, 3, 4	後期	水 5	河 野 憲 嗣・渡 邊 博 子 E-mail kouno-kenji@oita-u.ac.jp watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7679(河野)・7702(渡邊)
授業の概要	さまざまな分野の外部講師によるオムニバス形式の講義です。大分で優れた商品・サービスを提供している企業経営者がものづくりの実践やイノベーションの事例を説明します。また行政やNPOに関わる人や大分にゆかりのある人が大分での成功例や今後の活性化に向けた考え方をお話しします。				
具体的な到達目標					
目標 1	大分に関連した「ものづくり」および「地域づくり」の現状と課題を理解し、説明できる。				
目標 2	経験知・実践知を通じて社会として取り組むべき課題の存在や地域によるイノベーションの重要性を理解するし、説明できる。				
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	食品				
3	農業				
4	工芸品				
5	製造業				
6	小売店				
7	観光				
8	中間まとめ				
9	マスコミ				
10	地域、商店街				
11	NPO、ボランティア				
12	教育				
13	金融				
14	行政（県庁、市役所など）				
15	総括とまとめ（順番や内容は、変更することがあります）				
アクティブ ラーニング	・ 講義終了後に講師への質疑時間をとります。積極的に発言して、語られた言葉の真意を掘り下げてください。 ・ 講義で学んだことをレポートなど成果物にしてもらうことで、学びの定着化を図ります。			その他の 授業の工夫	毎回の授業でコメントシートの記入、提出を求めます。コメントシートを通じて授業野中で対応できなかった質問や感想に答えます。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	講義予定の講師に関する情報について図書館やインターネットで事前に概要を調べておくこと。 講師への質問を 1 つ以上準備しておくこと。(事前学習30時間)			
	事後学修	講義を聞いた上で、あらためて講師に関する情報を調べてレポートを作成することで学びを深めること。(事後学習15時間)			
教科書	各講師が必要に応じて指定します。				
参考書	各講師が必要に応じて指定します。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合 (%)	
	レポート			70	
	試験			30	
注意事項	社会の第一線で活動されている方の話が聞ける良い機会です。 現実の社会で起きていることを知り、大分についての理解を深めながらいま暮らしている地域のことや社会全体への関心を広げてください。				
備 考	授業の内容や順番は講師の都合により変更する場合があります。2017年度以降の入学生のみ受講可能です。 地域創生教育科目				
リ ン ク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無	○				
教 員 の 実 務 経 験	河野憲嗣(企業経営者、全国銀行協会、人事担当)、渡邊博子(シンクタンク研究員等)				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○				
教員以外の指導に関わる実務経験者	企業経営者、人事担当者、営業担当者				
実 務 経 験 を い か し た 教 育 内 容	企業等における経営や実務の経験を通じて、現実の社会で求められる知識や考え方を習得する。				

授業科目名(科目の英文名)						旧授業科目名	
製品開発論 (Strategic Management for Product Development)						経営戦略論Ⅱ	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員		
選択	2	2, 3, 4	後期	金 3	仲 本 大 輔 E-mail daichan@oita-u.ac.jp 内線 7714		
授業の概要	本講義は製品やサービスの開発に関わる様々なテーマを経営戦略論の観点から探っていきます。企業が存続し成長していくための方法の1つとして新製品や新サービスの開発がありますが、そのためには企業はいかなる経営戦略を策定し、組織を動かしているか、を理解することをねらいとします。						
具体的な到達目標							
目標 1	企業の新規事業開発のあり方(新製品・新サービスの開発プロセス)について自らの視点で分析・考察できるようになる。						
目標 2	企業の多角化戦略のあり方について自らの視点で分析・考察できるようになる。						
目標 3	イノベーションと企業経営との関係について自らの視点で分析・考察できるようになる。						
目標 4							
目標 5							
授業の内容							
1	ガイダンス						
2	経営戦略論の復習						
3	市場地位別の戦略						
4	企業の多角化戦略①						
5	企業の多角化戦略②						
6	企業の新規事業開発						
7	社内ベンチャー①						
8	社内ベンチャー②						
9	社内ベンチャー③						
10	イノベーションと企業の経営戦略①						
11	イノベーションと企業の経営戦略②						
12	イノベーションと企業の経営戦略③						
13	製品アーキテクチャ論①						
14	製品アーキテクチャ論②						
15	業界標準をめぐる企業の経営戦略						
アクティブ ラーニング	講義で取り上げるテーマに関連するものを含め、企業経営に関連する記事やニュース映像等を適宜見せ、解説をします。その際に注目すべき点、考えてみてほしい点も指摘し、さらなる学習を促します。					その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	興味を持っている企業、業界に関するニュース、記事を積極的に見聞きしてください(各回1h)。					
	事後学修	講義で紹介した理論について、書籍等で復習やさらなる学習をしてください。また、企業経営に関するさまざまなニュースを、学習した理論枠組みでどのように解釈することができるか考えてみてください(各回2h)。					
教科書	開講時に指示します。						
参考書	・大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智(2016)『経営戦略[第3版]』有斐閣。 ・周佐喜和・竹川宏子・辻井洋行・仲本大輔(2009)『経営学1』『経営学2』実教出版。他にも適宜紹介します。						
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法					割合(%)	講義で取り扱うテーマに関連するビデオを観る時間を1回設けます。そのビデオを観て気づいたことや考えたことなどを小レポートとして提出してもらいます。
	期末試験 小レポート					90 10	
注意事項	レジュメ等を綴じるためのA4サイズのファイルを用意してください。ノートも用意するのがのぞましいです。						
備 考	経営戦略論を受講してから受講するのがのぞましいです。						
リ ン ク							
	URL						
担当教員の実務経験の有無							
教 員 の 実 務 経 験							
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無							
教員以外の指導に関わる実務経験者							
実 務 経 験 を いかした教育内容							

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
市場開発論 (Market Development Theory)					マーケティング論Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選 択	2	2, 3, 4	後 期	木 2	松 隈 久 昭 E-mail himatsu@oita-u.ac.jp 内線 7680
授 業 の 概 要	市場開発に関する理論と実践を学習し、市場開発の基本的理解を踏まえ、新たな市場を創造する際の課題を分析する基礎的能力を習得する。				
具体的な到達目標					
目標 1	市場開発を行うための基本的な方法を習得すること。				
目標 2	消費者の心理や行動を分析できるようになること。				
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	市場開発の方法				
2	市場開発の理論				
3	デジタル社会のマーケティング				
4	デジタル社会の消費者行動				
5	ビジネスモデルの事例研究				
6	デジタル・マーケティングの基本概念				
7	製品戦略の事例研究 1				
8	製品戦略の事例研究 2				
9	価格戦略の事例研究 1				
10	価格戦略の事例研究 2				
11	チャネル戦略の事例研究 1				
12	チャネル戦略の事例研究 2				
13	プロモーションの事例研究 1				
14	プロモーションの事例研究 2				
15	まとめ 2				
アクティブ ラーニング	テーマに関連する企業の市場開発行動を示すので、比較研究してほしい。 それにより具体的な市場開発行動を理解してほしい。レポートにより知識の確認を行う。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	テキストの内容について、事前学習を行うこと。25時間。			
	事後学修	学んだ理論に合うような現代的事例を経済誌や新聞で調べること。20時間。			
教 科 書	未定。初回の授業時に指定する。受講する方は、必ずテキストを入手してください。テキストからレポート課題を指定します。				
参 考 書	コトラー「マーケティング・マネジメント」プレジデント社				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合 (%)
	レポート				50
	試験				50
新型コロナ対策のために、遠隔授業にする場合があります。また、遠隔授業の時は、評価方法と割合を変更する予定です。					
注意事項	受講する方は、必ずテキストを入手してください。出席が基準以下の場合、評価しないので注意すること。 私語禁止。座席は指定席とします。				
備 考	中級レベルの科目のため、2年生以上の履修が適切です。関連する科目は、マーケティング論、製品開発論です。 新型コロナ対策のため、ZOOMでの授業(オンデマンドを含む)になる場合があります。				
リ ン ク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
組織革新論 (Organizational Change and Innovation)					組織革新論Ⅱ	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選 択	2	2, 3, 4	後期	金 2	本 谷 る り E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線 7707	
授 業 の 概 要	経営組織論の知識や理論を習得した上で、それらを応用して「組織の革新」を考える諸理論を学び、自ら考えることがこの講義のねらいです。企業組織が継続力を持つためには革新することが大きなポイントとなります。企業の事例を見ながら、どのような革新をいかに行うか、また次の革新につなげることなどを考えます。					
具体的な到達目標						
目標 1	企業組織の革新や変革に関する理論を身につける。					
目標 2	企業組織の継続と発展について、変革の理論を用いて説明することができる。					
目標 3						
目標 4						
目標 5						
授業の内容						
1	ガイダンス、イントロダクション					
2	組織のライフサイクルモデル（１）					
3	組織のライフサイクルモデル（２）					
4	組織と戦略のダイナミクス（１）					
5	組織と戦略のダイナミクス（２）					
6	組織文化の変革					
7	組織学習（１）					
8	組織学習（２）					
9	前半の復習					
10	組織化と進化（１）					
11	組織化と進化（２）					
12	戦略的な組織変革（１）					
13	戦略的な組織変革（２）					
14	組織変革の事例（１）					
15	組織変革の事例（２）					
アクティブ ラーニング	内容の理解、知識の習得ができたかを確認するミニレポートを講義中に実施します。				その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	毎日新聞を読み、企業や社会の動きを知るようにしましょう。 経営組織論の基礎知識が必要なため、不足すると思われる知識や理論に関わるテキストや文献を読んでから出席してください。 各回につき30～60分程度。				
	事後学修	配布する資料に記載されている課題に取り組みましょう。 余裕があれば、資料に記載の参考文献を読みましょう。各回につき30～60分程度。				
教 科 書	講義期間にわたって常に用いる教科書はありません。 授業の際に資料を配布し、参考文献の提示を行います。復習に活用してください。					
参 考 書	各回の講義中に関連する文献を提示します。					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	
	講義時間中のミニレポート				50	
	期末試験				50	
注意事項	・専門性が高いので、前期開講の経営組織論を履修しておく方がより理解が深まるでしょう。その他の経営学関連の科目も受講済みの学生さんにおすすめします。 ・私語や遅刻など他者に迷惑をかける行為は慎んでください。					
備 考	研究室はいつでもオープンにしています。質問などはいつでもどうぞ。					
リ ン ク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無						
教 員 の 実 務 経 験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容						

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
研究開発マネジメント論Ⅰ (Research and Development Management Ⅰ)					地域創生教育科目 株式会社論Ⅱ	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	2, 3, 4	前期	木 1	河 野 憲 嗣 E-mail kouno-kenji@oita-u.ac.jp 内線 7679	
授業の概要	研究開発は企業の競争力を左右する源泉として、主として製造業の領域で議論されてきました。現在はサービス業、例えばITや流通、また観光やエンターテインメントといった分野でも研究開発の重要性が注目されています。研究開発を成功裡に導くためのマネジメントの工夫について、ものづくりの事例からサービス業まで幅広く視野にいれながら考察します。					
具体的な到達目標						
目標1	研究開発マネジメントの基本的な枠組みを理解し、説明できる。					
目標2	デザイン思考を使って自らのアイデアを深化させ、表現できる。					
目標3	ビジネスプランの策定を通じて研究開発マネジメントの重要性を体得する。					
目標4						
目標5						
授業の内容						
1	オリエンテーション					
2	生産システムの基礎					
3	業務プロセス設計					
4	サービスマネジメント					
5	競争力の管理					
6	研究開発力の構築					
7	デザイン思考 1					
8	デザイン思考 2					
9	デザイン思考 3					
10	デザイン思考 4					
11	研究開発とイノベーション					
12	プレゼン 1					
13	プレゼン 2					
14	プレゼン 3					
15	講評とまとめ					
アクティブ ラーニング	・学習内容を理解していることを確認するための成果物を作成してもらいます。 ・演習やプレゼンの機会を取り入れて知識を体得して他の学生から学ぶ機会を設けます。				その他の 授業の工夫	毎回の授業でコメントシートの記入、提出を求めます。コメントシートを通じて授業の中で対応できなかった質問や感想に答えます。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	指定した資料の読了または課題の作成(事前30時間)				
	事後学修	講義内で得た気づきの文書化、関心を持ったテーマに関する資料の読了など(事後15時間)				
教科書	教科書は指定しません。授業はスライドを使って進めます。					
参考書	藤本隆弘(2001)『生産マネジメント入門Ⅰ』『生産マネジメント入門Ⅱ』日本経済新聞出版社					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	
	平常点				30	
	レポート				40	
	期末試験				30	
注意事項	授業中に意見を求めることがあります。予習復習を励行することで授業を有意義な時間にしてください。進捗や状況によって授業の進め方や内容を変更することがあります。					
備考	地域創生教育科目					
リンク	“個人ホームページ”					
	URL	https://kenjikouno.jimdo.com/				
担当教員の 実務経験の有無	○					
教 員 の 実 務 経 験	企業経営者、全国銀行協会、人事担当					
教員以外で指導に関わる 実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる 実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容	ビジネスの実体と金融の側面から、研究開発マネジメントの現状について解説する。					

授業科目名(科目の英文名)						旧授業科目名
ベンチャー起業論 (Venture Entrepreneurship Theory)						比較経営史Ⅱ
地域創生教育科目						
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選 択	2	2, 3, 4	前期	木 4	渡 邊 博 子 E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702	
授 業 の 概 要	本授業では、ベンチャー企業の定義や概念を知り、取り巻く経済・産業・社会とその構造変化について把握します。そのうえで、企業の創出にかかわるアントレプレナーシップ、企業の成長や経営の取り組みにかかわるイノベーションなどの歴史や本質についての理解も深めていきます。また、日米におけるベンチャー企業の動向を知るとともに、ベンチャーを起業する際のビジネス的側面であるヒト・モノ・カネ・情報などの経営資源の活用の仕方、起業のための条件や手法を具体的に考察していきます。さらに、ベンチャー企業の事例をふまえたうえで、今後のベンチャー企業のあり方を考え、自ら起業する可能性がある場合は、その態勢をとっていききたいと思います。適宜、事例をあげながら、特に地元大分のベンチャー企業の創出、成長や発展、課題などについても詳しく取り上げていきます。					
具体的な到達目標						
目標 1	一国経済の中でイノベーションやアントレプレナーシップの必要性和重要性を理解する。					
目標 2	ベンチャー起業のビジネス的側面を具体的に把握し、起業に対する多くの知識を修得する。					
目標 3	ベンチャー企業のこれからのあり方について考える。					
目標 4	自ら起業する可能性がある場合は、その準備をする。					
目標 5						
授業の内容						
1	ベンチャー企業の定義と歴史、ベンチャー企業を取り巻く経済・産業・社会					
2	イノベーションの概念と重要性					
3	アントレプレナーシップと起業家像					
4	日本およびアメリカにおけるベンチャー企業					
5	ベンチャー起業のビジネス的側面（1）：新しい事業機会とその評価					
6	ベンチャー起業のビジネス的側面（2）：アイデアの育成					
7	ベンチャー起業のビジネス的側面（3）：収益の仕組み					
8	ベンチャー起業のビジネス的側面（4）：販売や市場開拓					
9	ベンチャー起業のビジネス的側面（5）：差別化や強み					
10	ベンチャー起業のビジネス的側面（6）：事業計画書の作成					
11	ベンチャー起業のビジネス的側面（7）：資金調達と資金管理					
12	ベンチャー起業のビジネス的側面（8）：成長と目標					
13	大分におけるベンチャー企業の事例研究（1）					
14	大分におけるベンチャー企業の事例研究（2）					
15	講義のまとめとベンチャー企業の今後の姿					
アクティブラーニング	事例研究、グループワーク、個人ワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなど。				その他の授業の工夫	各テーマに関連した映像や新聞・雑誌記事などの利用。
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	各テーマに関する文献、関連する最新の新聞・雑誌記事、インターネット情報などの検索と学修(15時間) 興味あるベンチャー企業を取り上げ、その成り立ちや歴史、現状や今後の戦略についての調査(15時間)				
	事後学習	各テーマに関する学習の振り返りと理解(15時間)				
教科書	忽那憲治・長谷川博和・高橋徳行他『アントレプレナーシップ入門ーベンチャーの創造を学ぶ』(有斐閣ストゥディア)有斐閣、2013年。					
参考書	・ トーマツベンチャーサポート『起業の教科書』日経BP社、2016年。 ・ 松田修一『ベンチャー企業(第4版)』（日経文庫ー経営学入門シリーズ）日本経済新聞社、2014年。 ・ 鈴木克也編集『ソーシャルベンチャーの理論と実践ー理論と実践シリーズー』エコハ出版、2011年。 ・ 金井一頼・角田隆太郎編『ベンチャー企業経営論』有斐閣、2002年。 ・ 一橋大学イノベーション研究センター編『イノベーション・マネジメント入門』日本経済新聞社、2001年、など。					
評価成績割及評価の	評価方法				割合(%)	上記のことをもとに総合的に評価します。
	期末試験結果				70	
	授業参加姿勢(課題対応など)				30	
注意事項	自主的・主体的な態度で授業に参加してください。					
備考	地域創生教育科目					
リンク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無	○					
教員の実務経験	シンクタンク研究員等					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○					
教員以外の指導に関わる実務経験者	企業経営、金融機関、行政等に関わる方々					
実務経験をいかした教育内容	産業分析や関連する資料収集の仕方などの説明。					

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
金融イノベーション論 (Financial Innovation)					企業ファイナンス論Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	後期	木 3	鵜 崎 清 貴 E-mail kuzaki@oita-u.ac.jp 内線 7687
授業の概要	金融イノベーションとは、IoTやビッグデータそして人工知能といった技術革新が金融と産業のあり方を大きく変え、これまで考えられなかったような新たな金融サービスです。金融イノベーションは、プロダクト・イノベーション、プロセス・イノベーション、ソーシャル・イノベーション、そしてセキュリティ・イノベーションの4つのイノベーションが総合し、相乗効果を生むことにより、創出されます。金融イノベーションは、金融業からのみ生まれるとは限らず、他の産業からも生まれる可能性があり、産業の垣根を越える、あるいは国境を超える競争となります。本講義では、金融イノベーションの意義と事例を明らかにするとともに、ビッグデータを解析できるRを用いてファイナンスを解説します。				
具体的な到達目標					
目標1	金融イノベーションの専門用語を理解することができる。				
目標2	金融イノベーションの基礎を習得し、社会で生じている経済諸問題を理解できる。				
目標3	企業に関わる諸問題を解決する方法を習得でき、資格取得に役立つ。				
目標4	企業の社会的責任の重要性を理解できる。				
目標5	Rの基礎を学習できる。				
授業の内容					
1	イントロダクション				
2	金融イノベーションの意義				
3	銀行業における金融イノベーション				
4	保険業における金融イノベーション				
5	Rの導入と基本的操作				
6	収益率と回帰分析				
7	イールドカーブと主成分分析				
8	ポートフォリオ理論				
9	資本資産評価モデル (CAPM)				
10	金利スワップ				
11	プライシングとツリーモデル				
12	Black&Scholes 公式				
13	モンテカルロシミュレーション				
14	まとめ				
15	予備日				
アクティブラーニング	講義中に問題を解き、知識の確認を行っています。また講義中に時事経済・経営問題を議論します。ビッグデータを分析できる高度な統計ソフトであるRの取得に努めます。これを用い、データ分析を行います。				その他の授業の工夫
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	日経新聞を読むように勧めています。(30h)			
	事後学修	レポートや課題を出しています。(15h)			
教科書	大崎秀一・吉川大介(2013)『ファイナンスのためのRプログラミング』共立出版。				
参考書	Welch, Ivo, 2011. Corporate finance an introduction 2nd Editon (Prentice Hall). 市村昭三編(1995)『財務管理論』創成社出版年。 秋山裕(2018)『Rによる計量経済』オーム社。 坂本恒夫・文堂弘之(2007)『成長戦略のための新ビジネス・ファイナンス』中央経済社。 諸井勝之助(1990)『経営財務講義』東京大学出版会。 各テーマの参考文献は、講義時に指定します。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	講義中の発言				20
	レポート				30
	期末テスト				50
注意事項	銀行・証券業界等財務関連職種希望者および各種国家試験(証券アナリスト・公認会計士・税理士等)を受験希望の者の受講を歓迎します。				
備考	パワーポイントを用い講義を進め、講義ごとに資料を配付します。				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無	○				
教員の実務経験	公認会計士事務所顧問、株式会社非常勤監査役				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外での指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

授業科目名(科目の英文名)						旧授業科目名		
イノベーション戦略論 (Strategic Management on Innovation)								
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員			
選択	2	3, 4	前期	木 3	仲 本 大 輔			
					E-mail daichan@oita-u.ac.jp	内線 7714		
授業の概要	本講義ではまず、イノベーションのきっかけとなる何らかのアイデアの誕生から製品化、さらには事業化に至るまでのプロセスと、その過程にある落とし穴について紹介します。そして、そうした落とし穴にはまらないようにするために企業はいかなる経営戦略を策定すべきなのか、組織のあり方をどのようにすべきなのかについて考えていきます。また、昨今、イノベーションの成果を何らかの新製品や新サービスに具現化できたとしても、その担い手が長期的に競争優位や収益を獲得することが難しくなっているケースが出てきています。本講義はなぜそのような状況が起きるのか、そしてそこから脱却する、あるいはそうした状況に陥らないようにするためにはどのような経営戦略を策定すれば良いのかを考えていきます。							
具体的な到達目標								
目標 1	イノベーションに関するニュース、記事に対し、理論的枠組みを用いて自らの視点で分析・考察できるようになる。							
目標 2	イノベーションと企業経営との関係について自らの視点で分析・考察できるようになる。							
目標 3								
目標 4								
目標 5								
授業の内容								
1	ガイダンス							
2	イノベーションのプロセス①ーイノベーションの普及曲線ー							
3	イノベーションのプロセス②ー事業化へのプロセスと落とし穴ー							
4	ケーススタディ①ー日本企業の課題ー							
5	破壊的イノベーション							
6	ラディカル・イノベーションと既存企業①							
7	ラディカル・イノベーションと既存企業②							
8	ラディカル・イノベーションと既存企業③							
9	製品アーキテクチャとイノベーション							
10	モジュール化の進展とコモディティ化①							
11	モジュール化の進展とコモディティ化②							
12	脱コモディティ化の経営戦略①ーアーキテクチャ論の観点からー							
13	脱コモディティ化の経営戦略②ーアーキテクチャ論以外の観点からー							
14	ケーススタディ②ー脱コモディティ化の経営戦略ー							
15	まとめ							
アクティブラーニング	講義で取り上げるテーマに関連するものを含め、イノベーションや企業経営に関連する記事やニュース映像等を適宜見せ、解説をします。その際に注目すべき点、考えてみてほしい点も指摘し、さらなる学習を促します。					その他の授業の工夫		
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	新製品開発や新サービス開発に代表されるイノベーションに関するニュース、記事を積極的に見聞きしてください(各回1h)。						
	事後学修	講義で紹介した理論について、書籍等で復習やさらなる学習をしてください。また、イノベーションや企業経営に関するさまざまなニュースを、学習した理論枠組みでどのように解釈することができるか考えてみてください(各回2h)。						
教科書	開講時に指示します。							
参考書	・一橋大学イノベーション研究センター編(2001)『イノベーション・マネジメント入門』日本経済新聞社。 ・近能善範・高井文子(2011)『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』新世社。 ・大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智(2016)『経営戦略[第3版]』有斐閣。 その他、適宜紹介します。							
評価方法・成績割及評価の割合	評価方法					割合(%)	講義で取り扱うテーマに関連するビデオを観る時間を数回設ける予定です。その際に、そのビデオを観て気づいたことや考えたことなどを小レポートとして提出してもらう予定です。	
	期末試験 小レポート					80 20		
注意事項	レジュメ等を綴じるためのA4サイズのファイルを用意してください。ノートも用意するのがのぞましいです。							
備考	経営戦略論、製品開発論、イノベーション・マネジメント入門などを受講済みであることがのぞましいです。							
リンク								
	URL							
担当教員の実務経験の有無								
教員の実務経験								
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無								
教員以外の指導に関わる実務経験者								
実務経験をいかした教育内容								

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
研究開発マネジメント論Ⅱ (Research and Development Management Ⅱ)						
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	3, 4	後期	木 1	河 野 憲 嗣 E-mail kouno-kenji@oita-u.ac.jp 内線 7679	
授業の概要	研究開発マネジメントの応用事例として「キャッシュレス化社会」を取り上げます。具体的な事例としてクレジットカードやＩＣカード、チェック・トランケーションを取り上げ、これらの事例を通じて研究開発マネジメントに関する知識と理解を深めます。授業は研究開発マネジメントに関する基本的な理解があることを前提として進めます。決済システムについて講義の中で解説します。					
具体的な到達目標						
目標 1	研究開発マネジメントの成功と失敗の事例について理解し、説明できる。					
目標 2	社会的課題の解決と研究開発マネジメントのあり方の関係について理解し、説明できる。					
目標 3	研究開発マネジメントの知識に基づいて具体的なプランを作成、提案できる。					
目標 4						
目標 5						
授業の内容						
1	オリエンテーション 研究開発とイノベーション					
2	製品、サービスと研究開発					
3	金融における研究開発マネジメント					
4	日本の決済システム					
5	キャッシュレスへの期待と課題					
6	フィンテック					
7	電子マネー革命					
8	チェック・トランケーションについて					
9	先行研究、わが国及び諸外国の取組状況					
10	決済システムの業界構造分析					
11	衰退業界における戦略と戦略的撤退					
12	プラットフォームとしてのチェック・トランケーション					
13	発表会 1					
14	発表会 2					
15	総括とまとめ					
アクティブ ラーニング	・学習内容を理解していることを確認するための成果物を作成してもらいます。 ・演習や個人／グループワークを取り入れて知識を体得して他の学生から学ぶ機会を設けます。				その他の 授業の工夫	毎回の授業でコメントシートの記入、提出を求めます。コメントシートを通じて授業の中で対応できなかった質問や感想に答えます。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	研究開発マネジメントに関する基礎知識を理解しておくこと。 教科書の該当項目を事前に調べて、分からない語句や内容を明確にしておくこと。(事前30時間)				
	事後学修	義内で得た気づきの文書化、関心を持ったテーマに関する資料の読了など。(事後15時間)				
教科書	宮沢和正『かくして電子マネー革命はソニーから楽天に引き継がれた』インフォキュリオン、2018年 河野憲嗣『チェック・トランケーション研究－決済の経営学による考察－』学文社、2013年 他に配布資料やスライドを使って授業を進めます。					
参考書	延岡健太郎『MOT技術経営入門』日本経済新聞出版社、2006年 中島真志・宿輪純一『決済システムのすべて 第3版』東洋経済新報社、2013年					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	
	平常点				20	
	レポート				40	
	期末試験				40	
注意事項	「研究開発マネジメントⅠ」(前期)および「技術革新論」(夏季集中)を履修済みであること。 または2つの科目について履修済みと同等の知識・理解を有していること。 予習復習を励行することで授業を有意義な時間にしてください。 進捗や状況によって授業の進め方や内容を変更することがあります。					
備 考						
リ ン ク	個人ホームページ					
	U R L	https://kenjikouno.jimdo.com/				
担当教員の実務経験の有無	○					
教 員 の 実 務 経 験	企業経営者、全国銀行協会、人事担当					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を い か し た 教 育 内 容	ビジネスの実体と金融の側面から、研究開発マネジメントの限界と可能性について解説する。					

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
ベンチャー実践論 (Venture Practical Theory)						
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	3, 4	後期	木 3	渡 邊 博 子 E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702	
授業の概要	本授業では、ベンチャー企業の定義や概念、関連するイノベーションやアントレプレナーシップ、取り巻く経済・産業・社会とその構造変化などについてさらに理解を深めていきます。また、ベンチャー起業のビジネス的側面として、アイデアの育成、収益の出し方、販売促進や市場開拓、差別化や事業の強みなどを再認識したうえで、実際にビジネスプランを作成してもらいます。アイデアやテーマの選定、ビジネスモデルの構築とその事業可能性などについて考察しながら、様々な知識を用いてビジネスプランを考え、他者に説明する機会を設定します。また、ビジネスプランの実践として、実際に起業したり、アントレプレナーシップを身につけイノベーションに取り組んだり、本授業を自身のキャリアの一環として捉えてもらえるようにも実施していきたいと思います。					
具体的な到達目標						
目標 1	イノベーションやアントレプレナーシップなどのベンチャーに関わる概念を確認し、社会と関連づける。					
目標 2	ベンチャー起業のビジネス的側面を把握する。					
目標 3	ビジネスプランの作成を通じて起業やベンチャーを考える。					
目標 4	作成したビジネスプランを他者に説明する。					
目標 5	場合によっては、作成したビジネスプランを実践する。					
授業の内容						
1	イノベーションとアントレプレナーシップ、現代社会における起業					
2	ベンチャー起業のビジネス的側面（1）					
3	ベンチャー起業のビジネス的側面（2）					
4	ベンチャーの成長と多様なスタイル					
5	ビジネスプランの必要性和実際					
6	アイデアの育成やテーマの選定（1）					
7	アイデアの育成やテーマの選定（2）					
8	ビジネスモデルの構築と事業としての設立可能性（1）					
9	ビジネスモデルの構築と事業としての設立可能性（2）					
10	ビジネスプランの作成（1）					
11	ビジネスプランの作成（2）					
12	ビジネスプランの作成（3）					
13	作成したビジネスプランの発表（1）					
14	作成したビジネスプランの発表（2）					
15	講義のまとめ、ベンチャーや起業などのこれからのあり方					
アクティブラーニング	ディスカッション、グループワーク、個人ワーク、ビジネスプランの作成、プレゼンテーション、事例研究など。				その他の授業の工夫	各テーマに関連した映像や新聞・雑誌記事などの利用。
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	各テーマに関する文献、関連する最新の新聞・雑誌記事、インターネット情報などの検索と学修(30時間)				
	事後学習	各テーマに関する学習の振り返りと理解(15時間)				
教科書	教科書は使用しません。必要に応じて関連資料等を配布します。					
参考書	・ 田所雅之『起業の科学—スタートアップサイエンス—』日経BP社、2017年。 ・ 松重和美監修・三枝省三・竹本拓治編著『アントレプレナーシップ教科書』中央経済社、2016年。 ・ 川上智子・徳常泰之・長谷川伸編著『実践ビジネスプラン—事業創造の基礎力を鍛える—第2版』中央経済社、2015年。 ・ グロービス経営大学院『グロービスMBAビジネスプラン・新版』ダイヤモンド社、2010年。 その他、講義の中で適宜紹介します。					
評価方法・成績評価及び評価の割合	評価方法				割合(%)	上記のことをもとに総合的に評価します。
	期末試験結果				70	
	授業参加姿勢(課題対応など)				30	
注意事項	自主的・主体的な態度で授業に参加してください。					
備考	前期開講科目の「ベンチャー起業論」を受講していると取り組みやすいです。					
リンク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無	○					
教員の実務経験	シンクタンク研究員等					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○					
教員以外の指導に関わる実務経験者	企業経営、金融機関、行政等に関わる方々					
実務経験をいかした教育内容	産業分析や関連する資料収集の仕方などの説明。					

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
社会調査法 (Social Research Method)					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選 択	2	2, 3, 4	後 期	金 2	中 本 裕 哉 E-mail y-nakamoto@oita-u.ac.jp 内線 7677
授 業 の 概 要	世論調査、市場調査、アンケート調査などの社会調査に触れる機会も少なくないと思われる。しかし残念ながら、世の中にあふれている社会調査の方法や調査結果の解釈は必ずしも正しいとは限らない。重要なことは誤った調査にだまされず、社会問題を適切に解釈することである。本講義では、調査票調査を中心に社会調査の基礎的な方法論を修得する。さらに、実際に調査を行い、得られた調査データに統計分析を活用することで、問題に対する解決策を議論する。				
具体的な到達目標					
目標 1	社会調査法の基礎を修得する。				
目標 2	調査データに統計分析を適用し、問題に対する解決策を議論する。				
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	社会調査の企画Ⅰ				
3	社会調査の企画Ⅱ				
4	調査の設計Ⅰ				
5	調査票の設計Ⅱ				
6	実査Ⅰ				
7	実査Ⅱ				
8	実査Ⅲ				
9	調査データの分析Ⅰ				
10	調査データの分析Ⅱ				
11	調査データの分析Ⅲ				
12	調査データの分析Ⅳ				
13	報告書の作成Ⅰ				
14	報告書の作成Ⅱ				
15	報告書の作成Ⅲ				
アクティブ ラーニング	毎回、講義の終わりに小テストを実施する。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	参考書などを必要に応じて予習する。(15h)			
	事後学修	授業で扱う例題、小テストで復習する。(20h)			
教 科 書	教科書を指定しない				
参 考 書	盛山和夫『社会調査法入門』有斐閣、2004年、大谷信介ほか著『(第2版)社会調査へのアプローチ ― 論理と方法』ミネルヴァ書房、2005年				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	小テスト 期末試験				30 70
小テスト、期末試験から総合的に評価する。調査票の作成など、講義への学生の積極的な参加を求める。					
注意事項	「統計学」を履修していると理解が深まりますが、基礎的な統計手法は本講義で修得します。				
備 考					
リ ン ク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
イノベーション社会論 (Innovation and Society)						
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	2, 3, 4	前期	火 2	豊 島 慎一郎 E-mail stoy@oita-u.ac.jp 内線 7708	
授業の概要	本講義では、情報通信技術(ICT)の革新に伴うコミュニケーションの変容や社会変動等の様々な社会現象を関連づけながら、社会学の観点からイノベーションの社会的・文化的な諸条件やプロセスを明らかにし、今後の政策的・実践的方策や社会システムのあり方を考える。					
具体的な到達目標						
目標 1	「イノベーションの社会学」に関する基礎的知識や応用力を修得する。					
目標 2	与えられた課題について、自分の考えを論理的に展開できる力を修得する。					
目標 3						
目標 4						
目標 5						
授業の内容						
1	講義説明					
2	イノベーションと現代社会 1 (イノベーションと社会変動)					
3	イノベーションと現代社会 2 (イノベーションと社会変動)					
4	イノベーションと現代社会 3 (イノベーションと社会変動)					
5	イノベーションと現代社会 4 (イノベーションとICT)					
6	イノベーションと現代社会 5 (イノベーションとICT)					
7	イノベーションと現代社会 6 (イノベーションとICT)					
8	中間試験					
9	ソーシャル・イノベーションとは何か 1 (NPOの事例)					
10	ソーシャル・イノベーションとは何か 2 (NPOの事例)					
11	ソーシャル・イノベーションとは何か 3 (NPOの事例)					
12	ソーシャル・イノベーションとは何か 4 (まちづくりの事例)					
13	ソーシャル・イノベーションとは何か 5 (まちづくりの事例)					
14	ソーシャル・イノベーションとは何か 6 (まちづくりの事例)					
15	総論					
アクティブ ラーニング	小レポートの提出を毎回課す。				その他の 授業の工夫	映像資料やMoodleの活用。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	講義資料や参考書等の情報を必要に応じて予習する(22h)。				
	事後学修	講義資料や参考書等の情報を必要に応じて復習する(23h)。				
教科書	教科書は指定しない。講義で使用した資料は、Moodleにアップロードする。					
参考書	野中郁次郎ほか、2014、『実践ソーシャル・イノベーション』千倉書房。野中郁次郎編、2021、『共感が未来をつくる：ソーシャルイノベーションの実践知』千倉書房。大澤健・米田誠司、2019、『由布院モデル：地域特性を活かしたイノベーションによる観光戦略』学芸出版社。					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	小レポートおよび中間・期末試験の合格を単位取得の条件とする。
	平常点(小レポート等)				50	
	中間・期末試験				50	
注意事項	講義の進行上、スケジュールを変更する可能性がある。履修希望者が多数である場合は、受講者制限を設ける可能性がある。					
備 考						
リ ン ク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無						
教 員 の 実 務 経 験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を い か し た 教 育 内 容						

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
現代社会分析論 (Contemporary Socio-Analytic Studies)						
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	2, 3, 4	後期	火 2	豊 島 慎一郎 E-mail stoy@oita-u.ac.jp 内線 7708	
授業の概要	本講義のねらいは、社会学的な視点から社会的課題の解決を目指して、現代社会における様々な現象を分析するための基礎的知識・応用力を修得することである。社会学の基礎理論および概念に関する理解を深め、それを基に現代社会を読み解いていく。					
具体的な到達目標						
目標 1	社会学に関する基礎的知識や応用力を修得する。					
目標 2	与えられた課題について、自分の考えを論理的に展開できる力を修得する。					
目標 3						
目標 4						
目標 5						
授業の内容						
1	講義説明					
2	社会学とは何か					
3	社会学の基礎理論 1 (自我と自己など)					
4	社会学の基礎理論 2 (社会集団など)					
5	社会学の基礎理論 3 (支配と権力など)					
6	社会学の基礎理論 4 (官僚制など)					
7	社会学の基礎理論 5 (地位と役割など)					
8	中間試験					
9	社会学の基礎理論 6 (社会的分業など)					
10	社会学の基礎理論 7 (デュルケムの理論)					
11	社会学の基礎理論 8 (ジンメル理論)					
12	社会学の基礎理論 9 (ヴェーバーの理論)					
13	社会学の基礎理論 10 (現代社会と社会問題)					
14	社会学の基礎理論 11 (現代社会と社会問題)					
15	総論					
アクティブ ラーニング	小レポートの提出を毎回課す。			その他の 授業の工夫	映像資料やMoodleの活用。	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	講義資料や参考書等の情報を必要に応じて予習する(22h)。				
	事後学修	講義資料や参考書等の情報を必要に応じて復習する(23h)。				
教科書	教科書は指定しない。講義で使用した資料は、Moodleにアップロードする。					
参考書	岩本茂樹, 2015,『自分を知るための社会学入門』中央公論新社。栗田宣義, 2006,『図解雑学 社会学』ナツメ社。日本数理社会学会監修・土場学ほか編, 2004,『社会をくモデル>でみる―数理社会学への招待』勁草書房。友枝敏雄ほか編, 1996,『社会学のエッセンス』有斐閣。友枝敏雄ほか編, 2007,『Do! ソシオロジー』有斐閣。友枝敏雄ほか編, 2017,『社会学の力 最重要概念・命題集』有斐閣。友枝敏雄ほか編, 2021,『いまを生きるための社会学』丸善出版。					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	小レポートおよび中間・期末試験の合格を単位取得の条件とする。	
	平常点(小レポート等)			50		
	中間・期末試験			50		
注意事項	講義の進行上、スケジュールを変更する可能性がある。履修希望者が多数である場合は、受講者制限を設ける可能性がある。					
備 考						
リ ン ク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無						
教 員 の 実 務 経 験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容						

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
イノベーション科学技術論 (Innovative on Science and Technology)					地域創生教育科目	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	2, 3, 4	後期	月 5	社会イノベーション学科長 E-mail 内線	
授業の概要	イノベーションの基盤となる科学技術について、実際に実現した技術例をふまえながら知的財産管理などの制度や社会との関係のあり方などの理解を深めます。特に本授業では、大分県庁と協働して県内企業をリストアップし、科学技術を活用したイノベーションに取り組んでいる県内企業の事例研究を中心に講義を進めます。より身近な事例を題材とすることで、イノベーションと科学技術の関係を学ぶとともに、将来の進路を考える際にも活用できる内容です。					
具体的な到達目標						
目標 1	イノベーションの事例とその基盤となる科学技術の関係について、具体的に説明できる。					
目標 2	イノベーションを生み出す科学技術にかかわる制度や仕組み、またそれらを取りまく社会との関係について理解し、説明できる					
目標 3	大分におけるイノベーションの実践知や経験知への理解を通じて、自らの進路選択やキャリアプラン形成に活用できる。					
目標 4						
目標 5						
授業の内容						
1	ガイダンス					
2	鳥取大学					
3	九州ナノテック工学(株)					
4	エネフォレスト(株)					
5	(有)ビューティフルライフ					
6	(有)中村設備工業					
7	(株)椿説屋					
8	(株)ミカサ					
9	(株)エイビス					
10	新電力おおいた(株)					
11	T・プラン(株)					
12	大分デバイステクノロジー(株)					
13	(株)オーイーシー					
14	(株)大分からあげ					
15	イジゲン(株) (順番や登壇企業は変更することがあります)					
アクティブ ラーニング	・講義終了後に講師への質疑時間をとります。積極的に発言して、語られた言葉の真意を掘り下げてください。 ・講義で学んだ内容をレポートなど成果物にしてもらうことで、学びの定着化を図ります。				その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	講師や関連する情報の収集、質問を考えてくる(事前学習30時間)				
	事後学修	授業での気づきの文書化(事後学習15時間)				
教科書	・教科書は指定しません。各講師が必要に応じて指示します。					
参考書	・各講師が必要に応じて指示します。					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	
	小レポート(毎回)				100	
注意事項	社会の第一線で活動されている方の話が聞ける良い機会です。イノベーションと科学技術の関係についての理解を深めるとともに、自らの進路やキャリアプランを考える上で、いま暮らしている大分という地域や企業、社会全体への関心を広げてください。 地域創生教育科目					
備 考	組織内弁理士；富畑賢司					
リ ン ク						
	URL					
担当教員の 実務経験の有無	○					
教 員 の 実 務 経 験						
教員以外で指導に 関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に 関わる実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容						

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
知的財産論 (Intellectual property Theory)					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選 択	2	3, 4	後期	火 1	野 田 佳 邦（非常勤講師） E-mail noda@oita-pjc.ac.jp

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
進化経済学Ⅰ (Evolutionary Economics Ⅰ)						
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選 択	2	2, 3, 4	前期	木 3	下 田 憲 雄 E-mail nshimod@oita-u.ac.jp 内線 7683	
授 業 の 概 要	経済学のモデル分析は様々な経済システムの相互作用を、相互の関係を分析することを目指している。この場合、ミクロ経済学やマクロ経済学においては、分析手段として最適化が重要な役割を果たしている。また、様々な動学理論、経済成長論や景気循環論といった時間を明示的に扱う議論もある。しかしながら、経済のシステム自体が時間の流れのなかでどのような変化をしていくのかを、またその諸システムがおかれている空間を議論するモデルはなく、こうした点に分析をすすめる分野として進化経済学が発展している。進化経済学Ⅰでは進化ゲーム理論の基礎の習得と経済学への応用などを概観する。 本授業では、進化経済学の内容を展望するものではなく、その基本的な概念や社会イノベーションとの関わりが深いものを勉強していく。よって、この授業ではその基礎を理解してもらうことが狙いである。					
具体的な到達目標						
目標 1	経済システムの進化とは何かを理解できること、ならびにイノベーションとの関わりを理解することを目標とする。					
目標 2						
目標 3						
目標 4						
目標 5						
授業の内容						
1	イントロダクション（進化経済学の様々な論点）					
2	進化と経済学（1）					
3	進化と経済学（2）					
4	進化とゲーム理論（1）					
5	進化とゲーム理論（2）					
6	進化とゲーム理論（3）					
7	中間的総括 1（確認テスト）					
8	進化ゲーム理論の応用（1） 進化的安定性と倫理					
9	進化ゲーム理論の応用（2） 進化と社会制度（1）					
10	進化ゲーム理論の応用（3） 進化と社会制度（2）					
11	中間的総括 2（確認テスト）					
12	進化ゲーム論と経済学（1）					
13	進化ゲーム論と経済学（2）					
14	進化ゲーム論と経済学（3）					
15	イノベーションと進化経済学					
アクティブ ラーニング	2 回程度の中間的総括と小テストを実施する。小テストは講義中に30分程度を予定している。理解度が深まることを期待する。				その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	資料等により事前の予習を行う(30時間)				
	事後学修	課題等を通じて知識の定着をはかる(15時間)				
教 科 書	テキストは指定しないが、初回の講義のときに説明する。					
参 考 書	『進化経済学とは何か』 進化経済学会編 有斐閣					
評 方 成 価 法 績 制 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	
	中間レポート				30	
	学期末試験				70	
注意事項						
備 考	ゲーム理論、ミクロ経済学、マクロ経済の知識が必要となるので、これらの知識についても予習しておくことが望ましい。					
リ ン ク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無						
教 員 の 実 務 経 験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容						

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
ゲーム理論 (Game Theory)					ゲーム理論	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	2, 3, 4	後期	木 2	下 田 憲 雄 E-mail nshimod@oita-u.ac.jp 内線 7683	
授業の概要	主に経済学の例を用いてゲーム理論の基礎を勉強します。多数の意思決定者相互の戦略的な関係を前提に、個々人がどのような行動を選択するのかを勉強します。					
具体的な到達目標						
目標 1	相互の意思決定が影響し合う状況下での意思決定の問題を認識して、ゲームをプレーするプレイヤーがそれぞれ単独に意思決定非協力ゲームのゲームとしての状況を表現する戦略形と展開形ゲームならびに対応するゲームの解を求めることができる。					
目標 2						
目標 3						
目標 4						
目標 5						
授業の内容						
1	ゲーム理論とは					
2	戦略的考え方					
3	戦略と均衡 1					
4	戦略と均衡 2					
5	ナッシュ均衡とその応用 1					
6	ナッシュ均衡とその応用 2					
7	ゲームの展開形表現 1					
8	ゲームの展開形表現 2					
9	部分ゲーム完全均衡 1					
10	部分ゲーム完全均衡 2					
11	情報不完備なゲーム 1					
12	情報不完備なゲーム 2					
13	ベイジアン均衡の応用 1					
14	ベイジアン均衡の応用 2					
15	まとめ					
アクティブ ラーニング	講義内容に対応した問題を解答して提出してもらい、講義においてその解説を行う。				その他の 授業の工夫	事例による理解によって、理論の意味を習得する。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	テキストや資料により予習する(30時間)				
	事後学修	練習問題や課題の解答などにより、復習し知識の定着をはかる(15時間)				
教科書	『ゲーム理論入門』日経文庫 武藤滋夫 日本経済新聞社					
参考書	『ゲーム理論』新版 岡田章 有斐閣					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	
	小テスト・レポート				30	
	学期末試験				70	
注意事項	理解を確認するため、小テストならびにレポートの提出を求める					
備 考	関連科目：経済数学、統計学、経済学(Ⅰ、Ⅱ)、ミクロ経済学、マクロ経済学など					
リ ン ク						
	URL					
担当教員の 実務経験の有無						
教 員 の 実 務 経 験						
教員以外で指導に関わる 実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる 実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容						

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
イノベーションの経済学 (Economics of Innovation)						
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	2, 3, 4	前期	火 3	金 子 創・下 田 憲 雄 E-mail skaneko@oita-u.ac.jp 内線 7701(金子) nshimod@oita-u.ac.jp 7683(下田)	
授業の概要	シュンペーター以来、経済学におけるイノベーションは、経済の成長、経済発展や生産との関係で発展してきたが、制度的要因、企業の知的財産、ライセンスといった多岐の分野にわたっている。新しい技術の普及には様々な制度的要因が関わるが、中でも所有権の設定の重要性について、歴史上の技術革新の事例と突き合わせながら検討する。またイノベーションと直接関連のある知的財産制度及び競争政策について、経済学の視点から解説する。					
具体的な到達目標						
目標 1	経済学におけるイノベーションは、多様な形態で発展していること、またその重要性を理解することを目標とする。					
目標 2						
目標 3						
目標 4						
目標 5						
授業の内容						
1	はじめに・・・経済学におけるイノベーションの役割					
2	イノベーションとマクロ経済					
3	生産関数とイノベーション					
4	生産要素からみたイノベーション					
5	科学技術の変化と経済発展					
6	情報技術の進化と経済					
7	イノベーションと市場の創出・進化					
8	まとめ 1 小テスト 1					
9	取引コストと所有権制度					
10	第一次経済革命と生活様式の変化					
11	生存競争がもたらすコストへの影響					
12	産業革命の起点					
13	プロト工業化と生産機構の変化					
14	技術の波及プロセス					
15	まとめ 2 小テスト 2					
アクティブ ラーニング	2回の小テストを実施し、理解度が深まることを期待する。				その他の 授業の工夫	Moodleを活用した資料の提示、 レポート提出を通じて学生の理解 を確認する。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	Moodleにアップされる資料を使つての予習(30時間)				
	事後学修	講義内容の復習、課題等の提出(15時間)				
教科書	特に指定しない。講義に関する資料を適宜moodleにアップすることがある。					
参考書	・W.ブライアン・アーサー『テクノロジーとイノベーション』みすず書房、2011年 ・後藤晃、長岡貞男(編)『知的財産制度とイノベーション』東京大学出版会、2003年 ・ダグラス・C・ノース『経済史の構造と変化』日経BP社、2013年。ISBN978-4822249441					
評 方 成 価 法 績 制 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	
	2回の小テスト				100	
注意事項	公欠で小テストを受験できない場合は追試等を実施する。					
備考						
リンク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無						
教 員 の 実 務 経 験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容						

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
イノベーション学説史 (History of Innovation Economics)						
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	2, 3, 4	後期	金 1	金 子 創 E-mail skaneko@oita-u.ac.jp 内線 7701	
授業の概要	私たちの周囲には、私たちの日常生活を豊かにしてくれる様々な技術が溢れている。それらが私たちにとって使い勝手のよい形式で提供されているのは、これまでの(何らかの)「イノベーション」の結果と言え、その意味でイノベーションはありふれた現象と考えられる。本科目では、そのような現象が経済学においてどのようにとらえられてきたか、について歴史的に考察する。					
具体的な到達目標						
目標 1	誰の、どのような行動がイノベーションと呼ばれるか、を学ぶ。					
目標 2	また、それが経済全体へどのような影響をもたらすか、を整理する。					
目標 3						
目標 4						
目標 5						
授業の内容						
1	ガイダンス					
2	イノベーションに関わる諸概念					
3	企業家概念の起源					
4	階級認識と企業家機能					
5	階級の行動原理と経済動向					
6	古典派における安定的な資本家					
7	古典派以降における経営に関する理解					
8	完全競争市場と経営					
9	経営の役割：生産要素の結合					
10	経営の役割：組織内差配の位置づけ					
11	経営の役割：仲介					
12	独占企業と超過利潤					
13	均衡と不均衡、到達過程					
14	リスクと不確実性					
15	まとめ					
アクティブ ラーニング	・ 授業内で議論の時間を設ける。 ・ 毎回課題(ディスカッションを含む)を設け、理解を確認する。				その他の 授業の工夫	・ LMS(Moodle)を活用する。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	配布資料の理解(15h)				
	事後学修	・ 復習(15h) ・ 課題(15h)				
教科書	・ 教科書は指定しない。 ・ 配布資料を用いる。					
参考書	・ ウィリアム・J・ボーモル『自由市場とイノベーション』勁草書房、2010年。ISBN978-4326503421 ・ I・M・カーズナー『企業家と市場とはなにか』日本経済評論社、2001年。ISBN978-4818813007 ・ J・A・シュムペーター『経済発展の理論(上、下)』岩波書店、1977年。ISBN978-4003414712、978-4003414729					
評 方 成 価 法 績 制 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	
	期末試験				80	
	課題提出				20	
注意事項	すべての課題の提出を単位取得の要件とする。					
備 考						
リ ン ク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無						
教 員 の 実 務 経 験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容						

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
制度の経済学Ⅰ (Institutional Analysis Ⅰ)					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期	金 2	金子 創 E-mail skaneko@oita-u.ac.jp 内線 7701
授業の概要	私たちは、私たち自身を取り巻く「制度」(ルール・予想・規範・組織など)から様々な影響を受けながら日々の意思決定を行っている。経済学は、典型的には「合理的」な個人を仮定し、そうした個人間の相互作用の帰結について分析する。しかし、そのことは、その個人が制度的な影響を何ら受けない、ということを意味しない。本科目では、ある制度が個人の行動にどのように影響をおよぼし、またその帰結として制度がどのように持続するか、について考察する。				
具体的な到達目標					
目標 1	(直接に観測できないような要素も含む)制度的影響をどのように捉えるか、について学ぶ。				
目標 2	その応用として、私たちがどのような常識の下で生活を送っているか、について見直す。				
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	制度とは				
3	問題の分類と分析方法について				
4	制度的要素とゲーム：社会的ジレンマ				
5	制度的要素とゲーム：調整の問題				
6	ゲーム理論の基本概念と分析範囲				
7	完全情報展開形ゲーム				
8	不完全情報と部分ゲーム完全均衡				
9	複数期間に通じた戦略的状況				
10	有限回繰り返しゲーム				
11	非協調的な均衡の特徴				
12	無限回繰り返しゲームにおける協調				
13	マグリブ貿易商の契約				
14	結託とその自己強化				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	・ 授業内で議論の時間を設ける。 ・ 毎回課題(ディスカッションを含む)を設け、理解を確認する。				その他の 授業の工夫 ・ LMS(Moodle)を活用する。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	配布資料の理解(15h)			
	事後学修	・ 復習(15h) ・ 課題(15h)			
教科書	・ 教科書は指定しない。 ・ 配布資料を用いる。				
参考書	・ 山岸俊男『社会的ジレンマのしくみ』サイエンス社、1990年、ISBN 978-4781905976 ・ アプナー・グライフ『比較歴史制度分析 上／下』筑摩書房、2021年。ISBN 978-4480510112／978-4480510129				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	期末試験				80
	課題提出				20
注意事項	すべての課題の提出を単位取得の要件とする。				
備考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
進化経済学Ⅱ (Evolutionary Economics Ⅱ)					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3, 4	後期	木 3	下 田 憲 雄 E-mail nshimod@oita-u.ac.jp 内線 7683
授業の概要	経済学のモデル分析は様々な経済システムの相互作用を、相互の関係を分析することを目指している。この場合、ミクロ経済学やマクロ経済学においては、分析手段として最適化が重要な役割を果たしている。また、様々な動学理論、経済成長論や景気循環論といった時間を明示的に扱う議論もある。しかしながら、経済のシステム自体が時間の流れのなかでどのような変化をしていくのかを、またその諸システムがおかれている空間を議論するモデルはなく、こうした点に分析をすすめる分野として進化経済学が発展している。進化経済学Ⅱでは生物学の進化論、進化ゲーム理論などの発達を数理的な手法の導入をふまえて、多様な内容の理解を深める。				
具体的な到達目標					
目標 1	経済システムの進化とは何かを数理的な手法をふまえて進化と経済の関係を理解することを目指す。				
目標 2					
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	進化ゲームと経済 概観				
2	数学的準備 (1) 1 変数のダイナミックスと微分方程式				
3	数学的準備 (2) 1 変数のダイナミックスと微分方程式				
4	数学的準備 (3) 2 変数のダイナミックスと微分方程式				
5	数学的準備 (4) 2 変数のダイナミックスと微分方程式				
6	確認小テスト				
7	2 戦略の事例 (1)				
8	2 戦略の事例 (2)				
9	2 戦略の事例 (3)				
10	学習と戦略 (1)				
11	学習と戦略 (2)				
12	学習と戦略 (3)				
13	確認小テスト 2				
14	まとめ (1)				
15	まとめ (2)				
アクティブ ラーニング	講義の内容に対応した問題を解答して提出してもらい講義においてその解説を行う。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	資料による予習(30時間)			
	事後学修	課題等による知識の定着(15時間)			
教科書	資料を配布				
参考書	『社会科学者のための進化ゲーム理論』大浦宏邦 勁草書房				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合 (%)
	小テスト				30
	学期末テスト				70
注意事項					
備 考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

授業科目名(科目の英文名)						旧授業科目名	
制度の経済学Ⅱ (Institutional Analysis Ⅱ)							
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員		
選択	2	3, 4	後期	金 2	金 子 創 E-mail skaneko@oita-u.ac.jp 内線 7701		
授業の概要	私たちは、私たち自身を取り巻く「制度」(ルール・予想・規範・組織など)から様々な影響を受けながら日々の意思決定を行っている。経済学は、典型的には「合理的」な個人を仮定し、そうした個人間の相互作用の帰結について分析する。しかし、そのことは、その個人が制度的な影響を何ら受けない、ということを意味しない。本科目では、ある制度の下で個人がどのような選好を持つか、またそれが持続的に変化していくとき、どのように制度の変化をもたらすか、について考察する。						
具体的な到達目標							
目標 1	(直接に観測できないような要素も含む)制度的影響をどのように捉えるか、について学ぶ。						
目標 2	その応用として、私たちがどのような常識の下で生活を送っているか、について見直す。						
目標 3							
目標 4							
目標 5							
授業の内容							
1	ガイダンス						
2	内生的な制度変化について						
3	制度の存続						
4	制度の安定性						
5	自己強化とそのモデル化						
6	制度のライフサイクル						
7	制度と選好						
8	状況依存的な選好						
9	社会的選好						
10	選好の文化的進化						
11	ホッブズの均衡とルソー的均衡						
12	偶然、集合行為制度的イノベーション						
13	互惠的利他主義と互惠性						
14	個人的特質と集団的特質の共進化						
15	まとめ						
アクティブ ラーニング	・授業内で議論の時間を設ける。 ・毎回課題(ディスカッションを含む)を設け、理解を確認する。					その他の 授業の工夫	・LMS(Moodle)を活用する。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	配布資料の理解(15h)					
	事後学修	・復習(15h) ・課題(15h)					
教科書	・教科書は指定しない。 ・配布資料を用いる。						
参考書							
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法					割合(%)	
	期末試験					80	
	課題提出					20	
注意事項	すべての課題の提出を単位取得の要件とする。						
備考							
リンク							
	URL						
担当教員の実務経験の有無							
教員の実務経験							
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無							
教員以外の指導に関わる実務経験者							
実務経験をいかした教育内容							